



「本当に大切なものは目に見えない」

「たいせつなことはね、目にみえないんだよ」

これはフランスの作家、サン＝テグジュペリの童話「星の王子様」の中に出てくる言葉です。

飛行士の「僕」は砂漠に不時着し、たった一人で飛行機を修理しています。すると他の惑星から来た王子様が現れ、二人は様々な話しをしながら心を通わせていきます。王子様は自分の惑星を出発してからの様々な体験を語るのですが、地球で出会ったきつねから「心で見ないと物事はよく見えない。肝心なことは目に見えない」ということを教わったと話すのです。

さて幼稚園で日々大切に育てたいと思っていることも「目にみえない」ものばかりです。「おともだちがだいすき！」という人を信頼する気持ち、「やってみたい！」という意欲、自分で判断したり考えたりする主体性や思考力、「今度こそ！」という粘り強さなど、どれも形あるものとして私達が見えるわけではありません。しかし心の目で見れば、お友達と誘い合ってブランコに走っていく姿に、毎日毎日繰り返し鉄棒にぶら下がる姿に、ケンカしている仲間に「どうしたの？」と声をかけている姿に「目には見えない大切なもの」の育ちを感じることができます。その一つ一つを見逃さないように心の目をみがなくては・・・と思っています。

今日はクランツに3本目のろうそくを灯しアドベント3週目の礼拝を捧げました。来週はいよいよクリスマスです。

神様の愛も目に見えるものではありませんが、讚美礼拝に向かうこども達の姿を通して「本当に大切なもの」を感じたいと思います。

児玉 芽  ♪